第１回　揖斐川流域新五流総地域委員会　議事概要

揖斐川流域新五流総地域委員会事務局

日時：平成 25 年 9 月 30 日（月）9:30～11:30
場所：西濃総合庁舎　4 階大会議室

１．　議事

○規約について
○「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の改定について
　(1)「岐阜県新五流域総合治水対策プラン」について
　(2)改定内容について
○今後の進め方について

２．　議事要旨

○規約について
　事務局より規約案について説明があり、委員より了承された。
　委員長には、岐阜大学フェローの藤田裕一郎名誉教授が選出された。

○揖斐川流域における総合的な治水プランの改定について
　議事(1)、(2)の項目の内容について事務局から説明があり、質疑がなされた。各項目について交わされた質疑応答の主な内容は以下の通りである。
　(1)「岐阜県新五流域総合治水対策プラン」について
　・短期目標が１０年計画となり、相当長い期間に感じる。池田町の杭瀬川沿川においては、雨が降るとその状況がテレビ画面にいつも出て、浸水して住めない地域とのイメージが育っている。そのため、１０年計画の中でも、緊急性の高い箇所は５年間を目標に整備を進めてもらいたい。また、前回の５年間の短期計画に掲げられた事業について、完了したかどうか、また、その効果についてお聞かせ願いたい。
　　→ 次の改定内容のうちの治水対策で説明がなされた。
　(2)改定内容について
　・相川、大谷川、泥川、その他の河川について、前回定めた５年間の目標は、概ね達成していると理解してよろしいか。
　　→ 相川、大谷川、泥川、その他、(1)で説明のあった杭瀬川などのように、着実に進んでいるものの、財政事情により短期目標を達成していない河川もある。被災状況を鑑み 50 戸以上の床上浸水被害が発生した河川には、優先的に予算を確保して短期目標を達成させている。
　・全ての河川の事業を１０年間で実施するには、相当な費用がかかると思われるが、７、８年後に８割、９割が完成したと思えるように努力していただき、そのための国の予算確保もお願いしたい。

→ 当初予算だけでなく、補正予算や災害復旧事業等、機会を適切に捉えて、早期に完成できるよう努力していきたい。

・西濃地区西部の河川は、最終的に牧田川へ流れ込むため、それらの改修に伴って下流への負担が増加することに養老町としては心配である。養老町を流れる牧田川は直轄区域であり、当然、国と協議して事業は進められると理解しているが、上流の整備が進んでも、下流が大丈夫だという内容を記載しておいて欲しい。

泥川における１０年の整備目標で、排水機場設置に着手とあるが、相川に排水する排水機場という意味か。

津屋川は先日の台風により、鷲巣地域で床下浸水になっている。最下流には、国の排水機場があることから、排水機場を稼働させ、どんどん排水して欲しい。また、左岸堤の一番下流には、土地改良の排水機場が６箇所集中しており、それらで一斉に排水がなされると、どんどん溜まって上流に影響が及んでいる。このことについて、県の考えをお聞きしたい。

→ 牧田川の上下流については、課題と目標の中に記述する。

泥川に設置する排水機場は相川に排水するように計画されている。

津屋川について、先日の台風では、制限湛水位の５．８ｍを超えてはいなかったが、今後は検討が必要になると思われる。湛水防除事業の排水機を動かし、上流の家屋が浸水するようなら、排水機場の操作規定上も問題となるので、施設管理者と協議するべきではないかと思う。

・泥川の排水機場設置について、大谷川の洗堰との関係もあるため、住民合意を得ることをお願いする。

水門川排水機場に耐震上問題があり、調査中との説明があったが、年次計画の中で、改修事業を進め大規模事業の割合を抑制するとのことであった。状況は理解できるが、水門川排水機場を計画の中に組み入れていただきたい。

→ 水門川排水機場の耐震工法等は決まっており、それに沿って耐震化を徐々に実施していく。

・水門川の八島町と林町は、１０年間で浸水被害を軽減すると言われたが、昭和５１年の９・１２災害からほとんど手つかずで、毎年水害が発生している状況下の中で、今後１０年は当てにしていいのか、早く対策を練って実施して欲しい。

→ 流域からの流出抑制や河道改修など、できるだけの対応を図っていく。

○今後の進め方について

事務局からの今後の進め方の説明について、特に質疑は無かった。